

おける急速な進歩について、より正確な評価をするようになるであろう。私が気がついた唯一の弱点は、人員の不足である。他大学からの人材の雇用および院生の受け入れがされにくいということは惜しむべき事である。

新しいポジションの不足は、日本の学術社会の雇用形式に由来する問題である。予算上の理由から、ある種の統制は必要であろう。しかしそれは、個々の組織とくに適用されるべきものでなく、より大きなスケールで適用されるべきものである。仮に、学問全体の組織の規模を一定に保つことが必要であった場合、停滞している領域の組織を縮小してでも、天体物理学のように急速に進展している領域は拡張されるべきであろう。もし、このような配慮のもとに、新しいポジションが優秀な人たちに与えられたとしたら、日本の天体物理学がより急速に発展するものと思われる。

日本における計算機施設は優れており、スーパーコンピュータの導入によって、それはより一層充実したものになるであろうが、これらの大型計算機を補う意味から、速くて便利な、会話型のデータ解析のできる TSS システム、および、最新のワードプロセッサシステムにもっと注意がむけられてもいいのではないかと思われる。良いコンピュータシステムとは、利用者が苦勞せず使えるものでなくてはならない。なぜなら、計算機を使用するための準備段階で時間が費やされれば費やされるだけ、研究者本来の仕事、即ち、創造的行為に費やされるべき時間が少なくなってしまうからである。

野辺山、それに多分竹原の例外を除くと、研究者が使っている設備は最新のものとは言い難い。そのような状況から、通常予想されることは研究意欲が低下する可能性であるが、それとは裏腹に、研究者たちは明るく、そして機知に富んでいた。しかしながら、一流の研究者が、どちらかと言えば機能が制限された時代遅れの機器を使わなくてはならないという能率の悪い状況が及ぼす長期的な悪影響を心配せざるを得ない。重要な事は、使い易い設備そのものではなく、創造を産み出す事に対して最も助けになる、そして、もっとも邪魔にならない設備が研究者に提供されるべきだということである。

### 3. 一般的印象

日本は、古い物と最新の高度な技術とが見事に混合された国であると言える。日本のすぐれた計算機や宇宙技術と共に、整った日本庭園の落ち着きにもとても感心させられる。2~3の断片的な言葉を話したり読んだりすることを学ぶだけでなく、言葉の起源や基本的パターンのいくつかを理解することは、家族全体にとって、とてもおもしろい事であった。

日本と米国という多くの物を共有する2つの現代文化

の間にも存在し得る相違が、我々の毎日の生活の中でしだいに明らかになってきた。人々の食事、睡眠、物の売買、動作、娯楽等の方法の中に、ほとんどが些細な事であるが、数えきれないくらいの違いが見いだされた。テレビのコマーシャルのいくつかを見るだけでも、一つの同じような状況への対処の仕方が如何に米国人と違い得るかということが判然とする。

私のホストの人たちは、辛抱強く、我々の日本での生活および国内旅行について、色々と手助けをしてくれた。それに加えて、街の通りとか、電車の駅で途方に暮れてしまった時、いつも、誰か親切な通りがかりの人が我々を助けてくれた。このような、日本人の暖かさや親切さがいつも気持良く感じられた。西欧人は、往々にして、東洋人の顔が無表情だという観念を持ちがちであるが、テレビで、いくつかのクイズ番組を見るうちに、この観念は私の心の中から完全に消え去ってしまった。とても驚いたことに、日本においては、無表情な顔をしているのはむしろアメリカ人であることに気づいた。私の思うに、無表情な顔をするのは、東洋人、西洋人を問わず、外国人として、コミュニケーションが容易に出来ず、また街角に、常に自分にとって新しい事が待ちかまえているかもしれないという状況のもとに住む人間の自己防衛反応なのであろう。(斎尾英行訳)

## 学会だより

### 日本天文学会評議員の候補者名簿

1984年度の通常総会に推薦される評議員(1984~1988年度)の候補者には次の方が選ばれました。

池内 了	海野和三郎	尾崎洋二
古在由秀	坂下志郎	笹尾哲夫
寿岳潤	杉本大一郎	坪川家恒
早川幸男	堀源一郎	森本雅樹
守山史生	若松謙一	若生康二郎

なお、有権者数は537名、投票者数は168名、投票総数は1680票(うち無効票7)でした。

1984年2月8日

第5期 選挙管理委員会

☆ ☆ ☆